

講和談判筆記第三回本會議

明治三十八年八月十四日午前十時開會

列席者前回ニ同シ

「ウヰッテ」氏 一昨日述ヘラレタル貴方ノ意見ニ適合セムカ爲メニ一案ヲ提出シ置キタリ右ハ卑見ニモ合スルモノナルカ貴見如何(十二日夜「ウヰッテ」氏ハ「ナボコフ」書記官ヲ遣ハシ第一條ニ關シ左ノ如キ修正案ヲ送付シ小村男ニ意見ノ内示ヲ求ム)

露西亞帝國政府ハ日本國カ韓國ニ於テ政事上、軍事上及經濟上ノ優越ナル利益ヲ有スルコトヲ承認シ日本國カ韓國ニ於テ必要ト認ムル指導、保護及監理ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻礙シ又ハ之ニ干涉セサルコトヲ約ス露西亞國臣民ハ他ノ外國ノ臣民又ハ人民ト全然同様ニ待遇セラルヘク之ヲ換言スレハ一般ニ採用セラレタル最惠國條款ニ依リテ待遇セラル、コト、知ルヘシ尙日露兩國ハ一切誤解ノ原因ヲ避ケムカ爲メ露韓國ノ國境ニ於テ露西亞國又ハ韓國ノ領土ノ安全ヲ侵迫スルコトアルヘキ何等ノ措置ヲ執ラサルコトニ決定ス(原文ハ附屬書第一號)

(小村男ハ翌朝少シク字句ヲ修正シ左案ノ如クニシ「ウヰッテ」氏之ニ同意ス)

露西亞帝國政府ハ日本國カ韓國ニ於テ政事上、軍事上及經濟上ノ卓絶ナル利益ヲ有スルコトヲ承認シ日本國カ韓國ニ於テ必要ト認ムル指導、保護及監理ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻礙シ又ハ之ニ干涉セサルコトヲ約ス韓國ニ於ケル露西亞國臣民ハ他

0187

ノ外國ノ臣民又ハ人民ト全然同様ニ待遇セラルヘク之ヲ換言スレハ最惠國ノ臣民又ハ人民ト同一ノ地位ニ置カルヘキモノト知ルヘシ尙日露兩國ハ一切誤解ノ原因ヲ避ケムカ爲メ露韓間ノ國境ニ於テ露西亞國又ハ韓國ノ領土ノ安全ヲ侵迫スルコトアルヘキ何等ノ措置ヲ執ラサルコトニ同意ス(原文ハ附屬書第二號)

小村男 全然同意ス唯末文措置ナル文字ニ「軍事上」ナル形容詞ヲ附シ一層其ノ意義ヲ明ニ爲シ置キタシ

「ウヰッテ」氏 異議ナシ

小村男 然ラハ第一條ハ確定セルモノト認ム

「ウヰッテ」氏 然リ

小村男 コレヨリ第二條ニ移ラム

「ウヰッテ」氏 諾

小村男 第二條ニ關スル露國回答ニ對シ修正案ヲ作り置キタルニ付之ヲ提出ス(トテ左案ヲ提出ス)

第二、日本國全權委員ハ露西亞國全權委員カ第二條第一段ヲ承諾シタルコトヲ領シ並同條ノ殘部ニ關シ同委員ノ爲シタル宣言ニ鑑ミ左ノ意義ニ同條款ヲ修正セムコトヲ提議ス

露西亞帝國政府ハ講和條約ニ附屬スル別約ノ規定ニ遵ヒ日本國ト同時ニ滿洲ヨリ全然撤兵スヘキコトヲ約ス又露西亞帝國政府ハ其ノ占領又ハ監理ノ下ニ

在ル滿洲全部ヲ擧ケテ全然清國專屬ノ行政ニ還附スルコトヲ約ス尙同政府ハ
滿洲ニ於テ清國ノ主權ヲ侵害シ又ハ機會均等主義ト相容レサル何等ノ領土上
利益又ハ優先的若クハ專屬的ノ讓與若クハ免許ヲ現ニ有セス又將來之カ要求
ヲ提出シ若クハ援助スルコトナカルヘキコトヲ聲明ス

日本國全權委員ハ別約ヲ以テ同時撤兵ノ細目及條件ヲ確定スルヲ緊要ナリト思料
ス又同全權委員ハ露西亞國及露西亞國臣民ハ滿洲ニ於テ清國ノ主權ヲ侵害シ若ク
ハ機會均等主義ヲ無視スル幾多ノ讓與及免許ヲ有セリトノ感想ヲ懷キタリ帝國政
府ノ唯一ノ希望ハ同地方ニ於ケル清國主權及行政ヲ全ク恢復シ且均等待遇主義ヲ
復興スルニ在リ

東清鐵道ニ關スル諸問題ハ第七條及第八條ニ於テ之ヲ考量スヘシ(附屬書第三號及
第四號)

「ウヰッテ」氏 (「ナボコフ」書記官ヲシテ右修正案ヲ朗讀セシメタル後) 文意ニハ異存ナキモ
文體ニ異議アリ即チ修正案ニ「露國ハ……………」ヲ約ス「トアリテ日本國ニ關スル約束ノコ
ト」毫モ規定スル所ナシ是レ全ク一面的ノ約束ニシテ露國ニ對シ之ヲ強要シタルノ觀
アリ依テ之ヲ「露國及日本國ハ……………」ヲ約ス「ト改メ相互的ニ規定スルヲ要ス
小村男 日本ニ關スル事項ハ第三條ニ規定シアリ且詳細ノ事項ハ別約ヲ以テ之ヲ定ム
トアルカ故ニ本條ニハ之ヲ省キテ可ナリ

「ウヰッテ」氏 了解セリ若シ第三條ニ日本撤兵ノ事規定シアラハ可ナリ然レトモ文體ハ

尙之ヲ改ムルヲ要ス

小村男 第三條ハ露國回答書ニ於テ貴全權委員ノ既ニ承認セラレタル所ナリ而シテ第

三條ハ該回答ニ依テ起草シタルモノナリ

「ウヰットテ」氏 事實ニ關シテハ異存ナシ但書方ニ關シテハ貴案ノ如キ片務的約束ノ觀アルモノニ同意スル能ハス又本問題ハ第二條ト第三條トヲ併合スルヲ可ナリト思考ス
小村男 然ラハ如何ナル書方ニセハ可ナルヤ

「ウヰットテ」氏 書方ニ關シ時ヲ費スハ不得策ニ付是レハ書記官等ニ一任スルコト、セン乎

小村男 其ノ書方ハ我方ニ於テ立案スヘシ是レヨリ第二條ノ第二點ヲ審議スルコト、セム此點ニ關シテモ日本ノコトハ第三條ニ規定シアリ本條ハ露國ニノミ關ス且此ノ文章ハ露國回答ニ依リテ作成シタルモノナリ

「ウヰットテ」氏 第三條ハ未タ討議ニ上ラス且貴案ヲ知ラサルカ故ニ第二條ノ第二點ハ第三條カ露國ニ對シ満足ナルヘキヲ條件トシテ之ヲ承諾スルノ外ナシ

小村男 宜シ

「ウヰットテ」氏 (ナポコフ) 書記官ヲシテ第二條第三點ヲ朗讀セシメタル後是亦片務的約束ナルニ非スヤ

小村男 第二條ト第三條トヲ照合セハ貴意ノ通り相互的ノ結果ヲ生スヘシ
「ウヰットテ」氏 未タ第三條ヲ見サルモ果シテ貴說ノ如キ主意ナルニ於テハ本條第三點ハ

0190

異存ナシ依テ此ノ第三點ハ相互ノ條件ヲ附スルコトトシテ之ヲ承諾スヘシ
小村男 本條ノ末項ニ於テ露國政府ハ現時滿洲ニ於テ露國ハ何等ノ特權ヲ有セストノ
旨ヲ宣言セラレナハ夫レニテ満足スヘシ然レトモ萬一ノ誤解ヲ避ケムカ爲メニ尙一
言シタキコトアリ聞ク所ニ據レハ露國政府ハ滿洲將軍ト契約ヲ締結シ吉林省ニ於ケ
ル礦山採掘權ヲ全ク露國人ノ手ニ收メ他國人ハ毫モ該權利ヲ行フコトヲ得サル様ニ
成リ居レリトノコトナリ某礦山ノ採掘權ヲ某一個人ニ特許シ他人モ亦同様ノ權利ヲ
享受スルヲ得ルコトナランニハ不可ナシト雖前陳ノ如ク露國人ニ限り該權利ヲ有ス
ルコト、爲シタルハ即チ一ノ露國人ノ爲メニ獨占的特權ヲ設ケタルモノニシテ本條
ニ規定セントスル約款ノ主旨ニ反スルモノト謂ハサルヘカラス貴見如何
「ウヰッテ氏 本員ハ全ク眞率坦白ニ云ハンカ今貴全權委員ノ陳述ノ如キ事實ノ存在ス
ルコトヲ知ラス若シ實際存在スルナランニハ是レ出先ノ露國官吏ニ於テ爲シタル事
ニシテ露國皇帝陛下ノ裁可ヲ經タルモノニ非ルカ故ニ取消サルヘキモノニシテ又必
ス之ヲ取消スヘシ今陳ヘラレタルカ如キ契約ハ決シテ露國政府ノ結ヒタルモノニハ
之レナシ

小村男 然ラハ可ナリ

「ウヰッテ氏 就テハ本條第一項ハ露日兩國ハ……………ヲ互ニ約ス」ト爲シ第二項モ亦露日
兩國ハ……………ヲ互ニ約ス」ト爲シ之ニ附屬ノ約款トシテ露日兩國政府ハ若シ現時ニ於
テ清國ノ主權ヲ侵害シ又ハ機會均等ノ主義ニ反スル特權ノ存在スルアラシニハ該特

權ハ取消サルヘキモノナルコトヲ茲ニ宣言ス_トノ旨ヲ明記シ置クコト、セム

小村男 尙將來ノ誤解ヲ防カンガ爲メニ戰爭以前哈爾賓ニ於ケル日本人ノ取扱ニ就テ

一言スヘキコトアリ即チ露國政府ハ鐵道經營ノ名義ノ下ニ同地ニ於テ清國ヨリ廣大ナリ土地ヲ讓受ケ同所ニ露國ノ行政ヲ布キ日本人ヲシテ之ニ服從セシメタルノ事實アリ此ノ如キハ清國ノ主權ヲ侵害シ且機會均等ノ主義ニ反スル特權ニ非スマ

ウヰッテ氏 露國カ滿洲ヲ占領シタル以來既ニ數年ヲ過クルカ故ニ或ハ同地方ニ於テ露國中央政府ノ知ラサル事實ノ發生シタルヤモ計リ難キモ其ノ皆取消サルヘキモノ

ナルハ既ニ述ヘタルカ如シ然レトモ哈爾賓ニ於ケル特權云々ニ就テハ一言ヲ要ス茲ニ一人アリ鐵道經營ノ爲必要ナル一定ノ地所ヲ占有スルモノアリトセハ是レ特許_{コンセンション}ニ

シテ特權_{フレイシユ}ニ非ス純然タル一私人ノ權利ナルカ故ニ政府ニ於テ之ヲ動シ得ヘキモノニ非ス之ニ反シテ或種ノ人ノミ享有スルヲ得ヘク他ノ人ハ之ニ與カルヲ得サル性質ヲ

有スル所ノ權利ハ特權ナリ今哈爾賓ニ於ケル鐵道經營ノ淵源ヲ説明セムニ同地ニハ元來單一箇ノ製酒場アリタルノミニシテ顧ミルニ足ラサル村落ナリシモ本員ハ先年同地ヲ巡回シテ其ノ將來大都會ト爲ルヘキ形勢ヲ有スルモノタルヲ覺リタルヲ以テ鐵道會社ハ同地ニ多少廣大ナル地所ヲ買受ケ鐵道經營ヲ始メタル次第ナリ去ル千九百二年同地ニ於テ本員ニ對シ日本人ノ取扱ニ付質問シタルモノアリタル際本員ハ明ニ日本人ハ露國人ト同様ニ之ヲ待遇セサルヘカラサル旨ヲ答ヘ置キタリ依テ若シ同地ニ於テ其ノ後果シテ日本人ニ對シ不當ノ處置アリシトセハソハ同地ノ市政當局

0192

者ヨリ生シタルニ非スシテ軍人ヨリ生シタルモノナルヘシ事情右ノ如クナルヲ以テ若シ同地ニ於テ露國カ土地ヲ賣拂フ等ノ場合ニ於テハ日本人ハ必ス他ノ一切ノ外國人ト同様ニ取扱ハルヘシ若シ今日迄同地ニ於テ日本人ニ對シ不正ナル取扱アリシトセハ此ノ如キ不正ナル取扱ハ今後全ク其跡ヲ絶ツニ至ルヘシ

小村男 抑モ滿洲ニ於ケル日本人ノ權利ハ露國政府ノ好意ニ依テ之ヲ有スルモノニ非スシテ日本國カ清國ト結ヒタル條約ニ因テ之ヲ有スルモノナリ然ルニ露國政府ノ滿洲ニ於テ執リタル處置ニ因リ日本人ハ其ノ條約上ノ權利ヲ享有スルヲ得サリシハ事實ナリ本條款ハ畢竟此ノ如キ事實ノ再發ヲ防止セムトスルノ目的ニ外ナラス尤モ露國ニ於テ鐵道ヲ所有スル以上ハ其ノ經營ヲ必要ナル地所ヲ有スルコトハ必要缺クヘカラサルコトナリト雖露國ハ現ニ哈爾賓ニ於テ鐵道經營ニ必要ナル程度ヨリハ遙ニ廣大ナル地域ヲ有セリ而シテ露國政府ノ此地域ニ對シ執リタル措置ニ依リ哈爾賓ハ事實上露國版圖ノ一部分タルノ觀アリ日本人モ亦露國行政ニ服從セサルヘカラス是レ全ク日清條約ヲ無視シタルモノナリ

「ウヰット」氏 貴見ニハ同意ヲ表シ難シ哈爾賓ニ於ケル現状ハ決シテ他國ノ條約ト衝突スルモノニ非ス抑モ露國ノ一會社カ清國政府ヨリ或ル面積ノ地所ヲ讓受ケ之ヲ利用經營スルコトハ決シテ條約ノ主義ニ違反スルモノニ非ス則チ該地所ノ所有者ハ其ノ欲スルカ如ク該地所ヲ利用スルコトハ固ヨリ其ノ當然ナリ故ニ日本人ニシテ同地ニ於テ土地ヲ買受クルニ於テハ全ク同様ノ事ヲ爲シ得ヘシ茲ニ例ヲ當「ボーツマス」ニ取

ランカ予若シ當地ニ於テ地所ヲ買受クルト假定セハ予ハ該地所ニ於テ家屋ヲ建築シ
 園庭若クハ田畑ヲ作ル等一ニ予ノ欲スルカ儘ニシテ毫モ違法ナル筈ナシ右予ノ事業
 ニ就テハ巧拙ノ批評ハ免カレサルヘキモ其ノ合法ナルハ何人モ疑ヲ挾ムヘキ筈ナシ
 今實際ニ移リテ哈爾賓ノ事情ヲ觀ルニ同市ハ鐵道會社ノ所有地ナルコト恰モ加奈太
 ニ於テ停車場附近ノ市邑ヲ鐵道會社ニ於テ所有スル場合多キト同シク該地ハ所有主
 タル鐵道會社ニ依リテ自由ニ取扱ハルヘキモノトス然レトモ同地及其ノ他ノ諸地方
 ニ於テ日本人ハ諸外國人ト同様ニ取扱ハルヘシ

小村男 本員ノ思想ノ能ク貴全權委員ノ了解スル所トナラサルハ今貴全權委員ニ於テ
 米國ニテ地所ヲ買受クル場合ト哈爾賓ニ於テ露國鐵道會社カ廣大ナル地所ヲ有スル
 場合トヲ比較セラレタルニヨリ明ナリ貴說ノ如ク米國ニ於テ日本政府カ地所ヲ買受
 クルコトヲ得ルハ勿論ナリト雖之ヲ使用スルノ方法ハ一ニ米國法ニ據ラサルヘカラ
 ス之ニ反シ哈爾賓ニ於テ露國鐵道會社カ露國行政ヲ施スハ恰モ日本政府カ米國ニ於
 テ地所ヲ買受タル場合ニ該地所ニ關シ日本法ヲ施行スルト同シク全ク土地ノ主權ヲ
 侵害スルモノト謂ハサルヘカラス

「ウヰ」テ氏 露國鐵道會社カ哈爾賓ニ於テ鐵道ノ經營ニ從事スルハ露國カ清國政府ト
 締結シ清國皇帝ノ批准ヲ經タル正式ノ特許ノ條約ニ依テ之ヲ爲スモノニシテ右條約
 ノ主旨ニ就テハ毫モ誤解アルヘキ筈ナシ蓋シ該鐵道ハ浦鹽斯德ト歐洲ノ西亞トヲ連
 絡スルノ目的ヲ以テ敷設ヲ計畫ヲ爲シ其ノ經營ハ清國トノ條約ニ依テ定メラレタル

モノニシテ其後同鐵道經營ノ實際ハ總テ該條約ニ準據シ一モ之ニ違反セルコトナシ
若シ該條約ノ條項ニ違反スト認メラル、事實アラハ指摘セラレタシ

日本國カ清國利益ノ守護者タルト同シク露國モ亦清國利益守護者タリ而シテ清國ノ
利益ハ哈爾賓鐵道經營ノ爲メニ毫モ損傷セラレ、コトナシ試ニ一步ヲ進メテ問ハム
貴國カ哈爾賓ニ於テ希望セラレ、所ハ果シテ何物ナリヤ若シ希望ノアル處ヲ示サレ
ムニハ本員等ハ可成之ニ應スルノ心算ナリ然レトモ貴方ニ於テ清國ノ辯護士タルカ
如キ態度ヲ以テ本問題ヲ論セラル、ニ於テハ本員等モ亦同シク清國ノ辯護士タルコ
トヲ一言セサルヘカラス哈爾賓鐵道ノ性質ヲ明白ナラシメムカ爲メニ本日午後ノ會
議ニ於テ該鐵道會社ノ清國政府ヨリ得タル特許ノ條約ヲ貴覽ニ供スヘシ

小村男 茲ニ談セムトスルハ哈爾賓ニ於ケル鐵道經營カ如何ナル性質タルヤニ非スシ
テ該經營ヨリ生セル所ノ結果ナリ貴説ノ如ク該鐵道經營ノ特許ハ正式ノ條約ヲ以テ
之ヲ清國ヨリ得タルモノニ相違ナシト雖露國ハ鐵道經營ノ名義ノ下ニ同地ニ於テ該
經營ニ必要ナラサル廣大ナル地所ヲ清國ヨリ讓受ケ露國ノ行政ヲ布ケリ本員等ハ毫
モ清國ノ利益ヲ辯護スルノ意ナク單ニ清國トノ條約ニ依リ日本國カ取得シタル權利
ヲ擁護セムト欲スルノミ假ニ哈爾賓ニ於テ露國ノ爲ス所果シテ正當ナリトセハ露國
ハ同様ノ口實ヲ以テ滿洲至ル所ニ同様ノ事ヲ爲シ得サル筈ナク其ノ結果ハ鐵道經營
ノ名義ノ下ニ滿洲全部ヲ侵略スルコト、ナルヘシ

「ウヰッテ」氏 貴説ハ鐵道會社ノ清國政府ヨリ得タル特許ノ性質ヲ明知セラレサルヨリ

生シタル一ノ誤解ナリ

小村男 然ラス鐵道會社ノ特許ノ眞性質如何ハ充分了解シ居レリ茲ニハ單ニ該鐵道經營ノ結果日清條約上ノ日本ノ權利ヲ侵害スルニ至レルコトヲ指摘セムト欲スルノミ若シ右ノ結果ニシテ果シテ正當ナルモノトセハ本條第三項ノ文字ハ全ク空文タルニ過キス

「ウヰッテ」氏 曩ニ提出セル露國回答書ニハ露國カ滿洲ニ於テ有スル一切ノ特權ヲ廢棄ストハ言明セス鐵道經營ナルモノハ勿論一ノ特權タルニ相違ナク從テ本條第三項ノ聲明モ亦鐵道經營ヲ除キテ之ヲ爲シタルモノナリ哈爾賓ニ於ケル鐵道事業ハ清國ヨリ得タル特許ニ違背スルモノニ非ス同地ニ於ケル日本人ハ他外國人ト全然同一ニ取扱ハルヘシ抑モ本員等ハ兩國ノ利益ヲ協定セムカ爲メニ此處ニ來リタルモノナルカ今貴説ヲ聽キ相互ノ間ニ主義上意見ノ相違アルモノ、如ク感セラル就テハ事件ノ進行解決ヲ迅速ナラシメムカ爲メニ哈爾賓ニ於テ貴方ノ希望セラル、所果シテ何物ナルヤ明示セラレタシ

小村男 本員ノ希望スル所ハ事物ノ實際ヲシテ本條第三項ノ精神ニ違背セシメサラムコト是ナリ即チ鐵道經營ニ必要ナル地以外ニ於テハ清國自身カ現實ニ行政ヲ執行セムコト是ナリ而シテ日本國ハ清國內ニ於テ此ノ精神ヲ飽迄實行スルノ決心ナリ「ウヰッテ」氏 鐵道ノ經營ニ必要ナル地面ノ廣狹如何ヲ定ムルコトハ頗ル難事ニシテ哈爾賓ニ於ケル鐵道會社ノ敷地ニ就テハ特別ノ事情アルヲ知ラサルヘカラス元來同地

0196

ニハ唯一ノ「アルコール」醸造所アリタルノミニシテ毫モ市街ト稱スヘキモノナク從テ從來ノ建物及設備等ヲ利用シ得ルノ便宜ナカリシカ故ニ會社ノ雇人、旅客及軍人等ノ爲メニ寺院、俱樂部、旅館等一切ノ設備ヲ爲スノ必要アリタリ又先年義和團騷擾後ハ鐵道保護ノ爲メ同地ニ兵營ノ建築ヲモ爲スヲ要シタリ是レ皆鐵道經營ノ爲メニ必要ナルモノナルカ故ニ之ニ要シタル地面モ亦鐵道經營ノ爲メニ必要ナルモノト云ハサルヘカラス其ノ他同地面内ニ於ケル警察モ露國ニ於テ自ラ施行セスシテ清國人ニ委スルニ於テハ毫モ鐵道ノ安全ヲ保護スル能ハサルヲ以テ露國自ラ之ヲ施行シ居レリ而シテ此等ノ諸項ハ皆鐵道ニ關シ清國ヨリ得タル特許ニ違背セサルモノナリ但シ右ノ外公法上ニ關スル諸項ニ就テハ貴見正當ナリ故ニ裁判權ノ如キハ決シテ露國ノ行ヒ居ル所ノモノニ非ス露國ハ全ク門戶開放ノ主義ヲ維持シテ之ヲ實行スヘキコトヲ茲ニ宣言スヘシ

小村男 將來ノ誤解ヲ豫防スルカ爲メニ本件ニ關スル貴我双方ノ意思ヲ明瞭ナラシムルコトヲ要シタリシ次第ナルカ先刻ヨリノ意見交換ニ依テ双方相解スルニ至リタリ是ヨリ此ノ事ニ關スル宣言案ノ文言ヲ定メサルヘカヲサルモ此ノ文言ニ付テハ未ダ研究ヲ遂ケサルヲ以テ午後ノ會議ニ至リ一案ヲ提出スルコト、セム

「ウヰ」氏 文言作成ノコトハ書記官等ノ任ナリ元來門戶開放ナルモノハ文字上容易ニ了解シ得ヘキ主義ノ如クナレトモ其ノ實行ニ至リテハ數多ノ論議ヲ生スルヲ免レサルモノナリ尤モ一私人的ノ利益ニノミ關スルナラハ此ノ主義ノ實行明白ニシテ疑

ヲ存セサルヘキモ鐵道ノ事項ニ至リテハ該主義ノ適用ニ關シ頗ル極端迄論議スルヲ得ヘク其ノ結果遂ニ鐵道ニ關スル特許ヲモ取消サムコトヲ要求スルニ立到ルヘキヤモ知ルヘカラス然レトモ該特許ヲ取消スカ如キコトハ本員ノ到底諾スル能ハサル所ナリ

小村男 露國回答書中本件ニ關シ「日本國ノ希望ヲ精確ニ言明セラレタキ旨記載アリタルニ付先刻來意見ヲ交換シタル次第ナリ又本條第三點即チ滿洲ニ於テ清國ノ主權ヲ侵害シ若クハ機會均等主義ニ反スル何等ノ特權ヲ有セス且將來之ヲ請求若クハ援助セサルコトヲ聲明スルコトニ關シテハ日本國ハ少シモ之ヲ爲スノ必要ナシ何トナレハ日本國ハ未タ嘗テ右様ノ事項ニ付他ヨリ批評若クハ嫌疑ヲ受ケタルコトナケレハナリ依テ此ノ事ニ就テハ獨リ露國ノミ聲明ヲ爲スヲ要スルモノナリ

滿洲撤兵ノ事ハ貴見ノ如キ相互的ニテ可ナリ門戶開放主義ノ事ニ關シテハ唯今述ヘタルカ如ク本條約中之ヲ明定シ置クヲ要ス露國ハ現在滿洲ニ於テ該主義ニ反スル特權等ヲ有セサルコトヲ宣言セララルノミニテモ宜シ

「ウヰッテ氏」ソハ獨リ文言作成ノミニ關スル問題ニ非ス將來些少ノ誤解ナカラシカ爲メニ今充分ニ意思ヲ明白ナラシメ置カンコトヲ要ス抑モ滿洲ニ於テ露國カ門戶開放主義ニ違反スル特權等ヲ有ストハ本員ノ全ク知ラサル所ナリト雖若シ萬一事實上存存スルコトナランニハ是レ必ス取消サルヘキヲ保證ス但シ鐵道ニ關スルコトハ全ク特別ノ事項タルカ故ニ此ノ宣言ノ爲メニ何等ノ影響ヲ受クヘカラサルモノトス從テ

清國政府カ將來他國ニ對シ曩ニ露國ニ對シ爲シタル特許ト同一ノ特許ヲ爲ス場合ニ於テハ露國ハ門戶開放主義ニ則リ決シテ之ニ反對セサルヘシ

小村男 鐵道ノ特許其ノ物ハ全ク本日談話ノ題目以外ナリ今日日本員ノ述ヘタル所ハ單ニ鐵道經營ノ結果ノミナリ將又滿洲ニ於ケル特權等ノ問題ニ付其ノ過去及現在ニ關シテハ日本國ハ何等ノ宣言ヲモ爲サルヘシ而シテ其將來ニ於ケルモノニ關シテハ其ノ時ニ至リ双方互ニ談合スルコト、セム

(右ニテ休會時ニ午後一時)

(午後三時二十分再開)

小村男 今朝ノ話題タリシ鐵道及其ノ附屬地所ノコトニ付一案ヲ作成セリトテ左記寫ノ案ヲウヰツテ氏ニ交付ス

日露兩國全權委員ハ將來ニ於ケル一切誤解ノ原因ヲ避ケムカ爲メ茲ニ滿洲ニ於ケル東清鐵道ノ敷設及經營ノ特許ハ門戶開放及均等待遇主義ト相容レサルモノニ非ス又右特許ニ依リテ獲得シタル土地ノ區域内ニ於テ日本國皇帝陛下ノ臣民ハ露西亞國皇帝陛下ノ臣民ト同一ノ權利及特權ヲ享有スヘキ旨ヲ聲明ス(原文英文及佛譯文ハ附屬書第五號及第六號)

ウヰツテ氏 此ノ事ニ關シ談スルノ前第二條ノ文章改作ニ付協議シタシ

小村男 承知セリ然ルニ茲ニ一ノ困難アルハ露國ハ滿洲全體ヨリ撤兵スルニ反シテ日

本國ハ遼東租借地以外ノ地方ノミヨリ撤兵スルニ在リ此ノ事誤解ヲ惹起スヤモ計リ
難キヲ以テ茲ニ明記シ置カムト欲ス

「ウ井ッテ」氏 貴意ノ通り二三語即チ遼東租借權ノ及フ地域ヲ除キ云々ノ如キ文字ヲ附
加ヘ置キテ然ルヘシ

小村男 異議ナシ

本條即チ第二條ニ三點アリ第一點ハ滿洲ノ同時撤兵ナリ第二點ハ清國行政ニ滿洲ヲ
還附スルコトニシテ日本國ニ關スルモノハ本條ニ規定スヘカラス之ヲ第三條ニ護ル
ヘク且第三條ハ既ニ大體上露國回答書ニ於テ承諾ヲ經テ定リタルモノナルカ故ニ別
ニ異議アルヘキ筈ナシ又第三點即チ滿洲ニ於ケル特許云々ノ件ニ關シテハ現在露國
カ之ヲ有セサルコトノミヲ聲明シ將來ノ事ニ關シテハ何等ノ規定ヲ設ケサルコト、
スヘシ何トナレハ將來ノコトニ付テハ日露兩國其ノ時ニ至リ談合ヲ爲スヲ得ヘケレ
ハナリ且此ノ案ハ露國回答書ノ主意ニ依リテ作成シタルモノニシテ其ノ間ニ重要ナ
ル差異ナキモノナリ

「ウ井ッテ」氏 貴案ノ如ク第二點ノ日本ニ關スル部分ヲ第三條ニ移スコトニ關シテハ異
議ナキモ是レ亦日露同様相互的トスル規定ヲ入ル、コトヲ要ス

小村男 既ニ陳ヘタル如ク第三條ハ大體ニ於テ既ニ貴方ノ同意ヲ經タルモノナルカ故
ニ今更異議アルヘキ筈ナシ

「ウ井ッテ」氏 主意ハ可ナルモ日本ニモ露國ト同様ノ約束ヲ帶ハシムルヲ要ス去リ乍ラ

0200

此事ハ第三條ヲ議スル時迄見合ハスヘシ

小村男 然ラハ先ツ本條第三點ヲ確定セム

「ウヰッテ」氏 將來ノコトハ之ヲ規定スルコトナク單ニ現在ノコトノミヲ規定スルコトトセハ日本モ露國同様ノ宣言ヲ爲スコトヲ得ヘキ筈ニハ非ル乎

小村男 抑モ本條第三點ノ規定ヲ要スル所以ハ日本人民ハ露國カ滿洲ニ於テ門戶開放主義ニ反シ若クハ清國ノ主權ヲ侵害スヘキ特權ヲ有スルニ非スヤトノ嫌疑ヲ有スルニ由リ今全ク該嫌疑ヲ除去セムトスルニ在リ之ニ反シ日本國ハ滿洲ニ於テ未タ嘗テ同一ノ嫌疑ヲ受ケタルコトナキヲ以テ此ノ如キ聲明ヲ爲スヘキ必要ナシ

「ウヰッテ」氏 該聲明ハ單ニ現在ニノミ關シ將來ニハ關セサルカ

小村男 然リ露國カ現在滿洲ニ於テ右等ノ特權ヲ有セサルコトヲ明記スルノミニテ可ナリ

次ニ第四點ハ鐵道經營事業ハ門戶開放ノ主義ニ違背セス云々ノ件ナリ之ニ關シテモ日本ハ滿洲ニ於テ從來清國ヨリ鐵道ノ特許ヲ得タルコトナキヲ以テ右ノ件ヲ條約ニ掲記スルヲ要セス單ニ會議錄ニ之ヲ記スルノミニテ足レリ

「ローゼン」男 否條約ニ掲記スルヲ可トス

「ウヰッテ」氏 小村男ノ提議ヲ諾ス而シテ右鐵道經營事業ハ門戶開放主義ニ違反セス云云ノ趣旨ヲ文字ニ書キ表ハスコトハ書記官等ニ任シテ可ナラム

小村男 曩ニ交付シタル案ノ通りニテ可ナルヘシ

「ウヰッテ氏」(該案ヲ讀了シタル後)此ノ案中……ノ主義ト相容レサルモノニ非ス迄ハ可ナリ其後部ニ付テハ多少修正ヲ施シ且此ノ聲明ノ趣意ヲ全ク相互的トナスヲ要スト信ス而シテ其ノ文言等ハ書記官等ヲシテ起草セシメ後刻重テ協議スヘシ

小村男 然ラハ後刻貴案ヲ閱覽ノ上重テ討究セム

次ニ第三條ノ案ヲ議セム該案ノ旨意ハ露國回答書ノ趣意ト同様ノモノニシテ其ノ間大差アルナシ故ニ我案ノ如クセム但シ文言ハ多少變更スルモ可ナリ

「ウヰッテ氏」否主意ニ大差アルヲ見ル即チ第二條第二點ニハ露國ノ滿洲行政還附義務ノコトヲ規定セルカソハ全ク無條件ニシテ如何ナル場合ニ於テモ露國ハ其ノ占領中ナル土地ヲ清國ノ行政ニ還附スルヲ要スルモノナルモ本條ニ至リ日本國ノ同様義務ヲ規定スルニ當リテハ一ノ條件ヲ附シ即チ清國カ善政ヲ實施スルノ保障ノ下ニ日本國ノ占領ニ係ル土地ヲ清國行政ニ還附ストナセリ何故ニ此ノ如キ重大ノ差異アリヤ

小村男 ソハ日露兩國ノ滿洲ニ於ケル地位全ク異ナレハナリ

「ウヰッテ氏」其ノ差異トハ如何

小村男 抑モ露國ハ先年滿洲ヲ清國ニ還附スルノ公約ヲ爲シタルヲ以テ滿洲ヲ撤退スルノ義務ヲ有シ從テ其ノ滿洲ヲ清國ニ還附スルハ單純ナル義務ノ履行ニ過キス然ルニ日本ノ地位ハ全ク之ニ反シ何等ノ義務ヲモ帶有セサルニ拘ハラズ自ラ進ミテ滿洲ヲ清國ニ還附セムトスルモノナリ元來滿洲ハ先年以來露國ノ掌握ニ歸シ事實清國ノ監理ヲ脱シタリシモノナルニ清國ハ何事ヲモ爲サルニ拘ハラズ日本戰勝ノ結果ト

シテ其ノ好意ニ依リ今ヤ之ヲ回復スルヲ得ルニ至リタルモノナリ故ニ日本國ハ滿洲
ヲ清國ニ還附スルニ當リ清國カ之ニ對シ善政ヲ施スノ保障ヲ要求スルニ正當ノ權利
アルモノト信ス

「ウヰッテ」氏 露國ハ滿洲ニ於ケル總テノ利益ヲ拋棄スルノ考ナレハ今更之ヲ保護スル
ノ意思アルモノニ非スト雖兩國カ各其ノ占領ニ係ル滿洲ノ部分ヲ清國ニ還附スルニ
關シテハ全ク相互的同一ノ條件ヲ要ス此ノ事ナクシテハ本員ハ何事ヲモ約束スルコ
ト能ハス

小村男 先ニモ陳ヘタル通り滿洲ニ於ケル日露兩國ノ位地ハ全ク相異ナレハ其ノ還附
ノ條件ノ同一ナラサルモ亦當然ナリ元來日本國カ滿洲ヲ清國ニ還附スルノ件タルヤ
全ク日清兩國間ノ事柄ナルニ依リ日露講和條約中ニ之ヲ規定スルノ必要ナキモノナ
レトモ日露兩國將來萬一ノ誤解アラムコトヲ慮リ茲ニ念ノ爲メ貴方ト協議スル次第
ナリ且右善政ノ保障ナクムハ日本國ハ滿洲ヲ還附セスト云フニ非ス故ニ曩ニ撤兵ノ
件ヲ論スルニ方リ日露兩國滿洲ヨリ同時ニ撤兵スト規定シタルナリ

「ウヰッテ」氏 露國ハ清國ノ辯護士ニ非サルカ故ニ日清兩國ノ關係ニ容喙スルヲ欲スル
モノニ非ス又決シテ日本國ノ清國ニ對シ爲ス所ノ措置ニ故障アルニ非ス然レトモ北
滿洲ノ事柄ニ關シテハ露國ハ全ク日本國ノ南滿洲ノ事柄ニ關スルト同様ノ權利ヲ得
ムコトヲ欲ス片務的ノ約束ハ之ヲ爲スコト能ハス畢竟是レ單ニ體面ヲ維持セントス
ルニ在リテ決シテ日本國ノ措置ニ關シ容喙セムトスルニ非ス

小村男 貴意ハ了解セルモ將來露國ヨリ故障ノ來ルヲ慮リテ此ノ條件ヲ設ケムトシタルナリ

「ウヰヰッテ」氏 本員ノ請求ハ偏ニ體面ヲ維持セムトノ思想ノミヨリ出テタルモノナレハ還附ノ事柄ハ是非相互的ニ爲サムコトヲ希望ス

小村男 貴全權委員ノ此ノ如キ態度ニ出テラル、所以ハ露員能ク之ヲ諒ス依テ善政云云ノ條件ハ全ク撤回セム

「ウヰヰッテ」氏 貴全權委員ノ同意ニ依リ第二條ト第三條トヲ併合シテ之ヲ完成スルヲ得タルハ幸ナリ

(是ニ於テ書記官等ハ右兩條ヲ併合セル第二條ノ文言ヲ確定シ兩國全權委員ノ認可ヲ得タリ即チ左ノ如シ)

日本國及露西亞國ハ互ニ左ノ事ヲ約ス

一 本條約ニ附屬スル追加約款第一ノ規定ニ從ヒ遼東半島租借權カ其ノ効力ヲ及ボス地域以外ノ滿洲ヨリ全然且同時ニ撤兵スルコト

二 前記地域ヲ除クノ外現ニ日本國又ハ露西亞國ノ軍隊ニ於テ占領シ又ハ其ノ監理ノ下ニ在ル滿洲全部ヲ擧ケテ全然清國專屬ノ行政ニ還附スルコト

露西亞帝國政府ハ清國ノ主權ヲ侵害シ又ハ機會均等主義ト相容レサル何等ノ領土上利益又ハ優先的若クハ專屬的讓與ヲ滿洲ニ於テ有セサルコトヲ聲明ス(原文ハ附

屬書第七號)

0204

(又會議錄中ニ挿記シ置クヘキ鐵道及其所屬地所ニ關スル聲明ノ文言ヲ左ノ如ク確定ス)

日露兩國全權委員ハ將來ニ於ケル一切誤解ノ原因ヲ避ケムカ爲メ茲ニ滿洲ニ於ケル東清鐵道ノ敷設及經營ノ特許ハ門戶開放及均等待遇主義ト相容レサルモノニ非ス又右特許ニ依リテ獲得シタル土地ノ區域内ニ於テ日本國皇帝陛下ノ臣民並其ノ他ノ諸外國民ハ露西亞國皇帝陛下ノ臣民ト同一ノ權利及特權ヲ享有スヘキ旨ヲ聲明ス(原文ハ附屬書第八號)

ウヰットテ氏 右ノ聲明ト同様ノ聲明ハ後ニ南滿洲ニ於ケル日本所屬鐵道ノ事ヲ規定スルニ方リ之ヲ爲スヲ要ス

小村男 承知セリ又滿洲撤兵時期等大體ノ事項ハ本條約附屬約款中ニ必ス規定シ置クヲ要ス

ウヰットテ氏 毫モ異議ナシ

(尋テ左ノ新聞通知案ヲ協定ス)

八月十四日朝ノ會議ニ於テ第一條ノ文言ヲ決定シ同日午後ノ會議ニ於テ第二第三兩條ヲ討議決定シ同六時散會セリ(原文ハ附屬書第九號)

第一號

Le Gouvernement Impérial Russe, reconnaissant que le Japon possède en Corée les intérêts prépondérants politiques, militaires et économiques, s'engage à ne point obstruer ni intervenir en ce qui concerne des mesures de direction, de protection et de contrôle que le Japon considérera nécessaire de prendre en Corée. Il est entendu que les sujets russes seront traités exactement de la même manière que les ressortissants des autres pays étrangers, savoir en vertu de la clause universellement adoptée de la nation la plus favorisée. Il est de même arrêté que pour éviter toute cause de malentendu le Japon et la Russie s'abstiendront sur la frontière russo-coréenne de toute mesure qui pourrait menacer la sécurité du territoire russe ou coréen.

第二號

Le Gouvernement Impérial Russe, reconnaissant que le Japon possède en Corée les intérêts prépondérants politiques, militaires et économiques, s'engage à ne point obstruer ni intervenir en ce qui concerne des mesures de direction, de protection et de contrôle que le Japon considérera nécessaire de prendre en Corée. Il est entendu que les sujets russes en Corée seront traités exactement de la même manière que les ressortissants des autres pays étrangers, à savoir qu'ils seront placés sur le même pied que les ressortissants de la nation la plus favorisée. Il est de même convenu que pour éviter toute cause de malentendu, le Japon et la Russie s'abstiendront sur la frontière russo-coréenne de toute mesure qui pourrait menacer la sécurité du territoire russe ou coréen.

第三號

2. Taking note of the acceptance by the Plenipotentiaries of Russia of the first part of Article II and having regard to their declaration concerning the remaining portions of the same article, the Plenipotentiaries of Japan propose to modify the stipulation in the following sense:

The Imperial Russian Government engage completely to evacuate Manchuria simultaneously with Japan in accordance with the provisions of the separate article annexed to the Treaty of Peace. The Imperial Russian Government also engage fully and completely to restore to the exclusive administration of China all portions of Manchuria which are in their occupation or under their control and they declare that they have not now, and that they will not hereafter advance or support, any claim to any territorial advantages or preferential or exclusive concessions or franchises in Manchuria in impairment of Chinese sovereignty or inconsistent with the principle of equal opportunity.

The Plenipotentiaries of Japan deem it essential to fix definitely by means of a separate article, the details and terms of simultaneous evacuation. The Plenipotentiaries of Japan were under the impression that Russia and Russian subjects possessed several concessions and franchises in Manchuria which trench upon the sovereignty of China or disregard the principle of equal opportunity. The sole desire of the Imperial Government is to fully restore Chinese sovereignty and administration in that region and to revive the principle of equal treatment for all.

The questions connected with the Eastern Chinese Railway will be considered under Articles VII and VIII.

第四號

(Traduction)

2. Prenant acte de l'acceptation par Leurs Excellences les Plénipotentiaires de Russie de la première partie de l'article et eu égard à leur déclaration en ce qui concerne les autres parties du même article, les Plénipotentiaires du Japon leur proposent de modifier la stipulation dans le sens suivant :

Le Gouvernement Impérial de Russie s'engage à évacuer complètement la Manchourie simultanément avec le Japon conformément aux dispositions de l'article séparé qui se trouve annexé au Traité de Paix. Le Gouvernement Impérial de Russie s'engage, de plus, à restaurer entièrement et complètement à l'administration exclusive de la Chine toutes les parties de la Manchourie qui sont occupées par la Russie ou qui sont sous le contrôle russe. Le Gouvernement Impérial déclare, en outre, qu'il n'a pas à présent et qu'il n'émettra ni appuiera à l'avenir aucune prétention aux avantages territoriaux ou aux concessions ou franchises préférentielles ou exclusives quelconques, qui porteront atteinte à la souveraineté de la Chine ou qui seront incompatibles avec le principe de l'opportunité égale.

Les Plénipotentiaires du Japon estiment qu'il est essentiel de fixer définitivement, au moyen d'un article séparé, les détails et les termes de l'évacuation simultanée. Les Plénipotentiaires du Japon avaient une impression que la Russie et les sujets russes possédaient plusieurs concessions et franchises en Manchourie, qui portaient atteinte à la souveraineté de la Chine ou qui méconnaissaient le principe de l'opportunité égale. Le seul désir du Gouvernement Impérial du Japon est de restaurer entièrement la souveraineté et l'administration chinoises dans cette région et de faire revivre le principe du traitement égal pour tous.

Les questions se rattachant au chemin de fer de l'Est Chinois seront traitées dans les articles VII et VIII.

第五號

The Plenipotentiaries of Japan and Russia, with a view to avoid all cause of future misunderstanding, declare that the concession for the construction and exploitation of the Eastern Chinese Railway in Manchuria is not inconsistent with the principle of the open-door and equal treatment and that within the boundaries of the land acquired under such concession the subjects of His Majesty the Emperor of Japan shall enjoy the same rights and privileges as the subjects of His Majesty the Emperor of Russia.

第六號

Les Plénipotentiaires du Japon et de la Russie, dans le but d'éviter toute cause de malentendu à l'avenir, déclarent que la concession de la construction et de l'exploitation du chemin de fer de l'Est chinois en Manchourie n'est pas incompatible avec le principe de la porte ouverte et du traitement égal et que, dans les limites du terrain acquis en vertu de cette concession les sujets de Sa Majesté l'Empereur du Japon jouiront des mêmes droits et privilèges que ceux de Sa Majesté l'Empereur de Russie.

第七號

(Article II, as finally adopted at the sitting of 14 Aug., Art. III being incorporated therein)

Japan and Russia mutually engage:

1. to evacuate completely and simultaneously Manchuria except the territory affected by the lease of the Liaotung peninsula, in conformity with the provisions of an additional article.

2. to restore entirely and completely to the exclusive administration of China all portions of Manchuria now occupied by Japanese or Russian troops or under their control, with the exception of the above-mentioned territory.

Imperial Russian Government declare that they have in Manchuria no territorial advantages or preferential or exclusive concessions or franchises in impairment of Chinese sovereignty or inconsistent with the principle of equal opportunity.

第七號佛譯文

2. La Russie et le Japon s'engagent mutuellement:

1. d'évacuer complètement et simultanément la Manchourie à l'exception

0208

du territoire sur lequel s'étend le bail de la presqu'île de Liaotung, conformément aux dispositions d'un article additionnel ;

2. de restituer entièrement et complètement à l'administration exclusive de la Chine toutes les parties de la Manchourie qui sont occupées maintenant par les troupes russes ou japonaises ou qui sont sous leur contrôle à l'exception du territoire sus-mentionné.

Le Gouvernement Impérial de Russie déclare qu'il n'a point en Manchourie d'avantages territoriaux ou concessions ou franchises préférentielles ou exclusives de nature à porter atteinte à la souveraineté de la Chine ou incompatibles avec le principe d'opportunité égale.

第八號

The Plenipotentiaries of Japan and Russia, with a view to avoid all cause of future misunderstanding, declare that the concession for the construction and exploitation of the Eastern Chinese Railway in Manchuria is not inconsistent with the principle of the open-door and equal treatment and that within the boundaries of the land acquired under such concession the subjects of His Majesty the Emperor of Japan as well as the subjects or citizens of other foreign countries shall enjoy the same rights and privileges as the subjects of His Majesty the Emperor of Russia.

第八號佛譯文

Les Plénipotentiaires du Japon et de Russie, dans le but d'éviter toute cause de malentendu à l'avenir, déclarent que la concession de la construction et de l'exploitation du chemin de fer de l'Est chinois en Manchourie n'est pas incompatible avec le principe de la porte ouverte et du traitement égal, et que, dans les limites du terrain acquis en vertu de cette concession, les sujets de Sa Majesté l'Empereur du Japon, ainsi que les ressortissants des autres Puissances étrangères, jouiront des mêmes droits et privilèges que ceux de Sa Majesté l'Empereur de Russie.

第九號

Dans la séance du matin du 14 Août, le texte de l'article I a été définitivement arrêté. Dans la séance de l'après-midi, les articles II et III ont été discutés et arrêtés et à six heures la séance a été levée.